

掲 示 板

2018年度第 1号 通巻第91号 2018年 6月 16日



ナミマイマイ 撮影 中野敬二

好奇心をもって自然や文化を眺めてみると、必ず何か発見があります。発見を共有しましょう

今年も引き続きフィールドレポーターの担当になりました、大槻です。主に植物の進化について研究していますが、生物同士のつながり（相互作用といいます）についても興味があります。今年初めてフィールドレポーター会員になられた方は、調査以外の活動についてまだ分からないと思います。そのような時にはこの掲示板を読んでいただくと、レポーターの交流活動について様々な情報が入ります。過去の掲示板は、琵琶湖博物館ホームページ内のフィールドレポーター関連（http://www.biwahaku.jp/hashir/fr/field_reporter）にアクセスしていただくと、読むことができます。今年も様々な交流活動を予定しています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

さて、5月19日（土）に開催されたフィールドレポーター交流会は、スタッフの前田さんが中心となってまとめた「カイツブリ調査」の報告と、現在スタッフの松村さんを中心に結果をまとめている「橋の名前調査」の中間報告でした。カイツブリ調査の報告は、上記のアドレスからアクセスすることができます。この報告の際に、当館の亀田学芸員だけでなく、滋賀県野鳥の会の岡田登美男さんにもお越しいただき、鳥のスペシャリスト達によるコメントを聞くことができました。詳しい報告については3ページをご覧ください。「橋の名前調査」では、橋の名前の由来について様々なパターンがあることが見えてきました。当館の北井学芸員からは「橋を設計する立場とは異なる視点で調査しているところがとても新鮮でした」というコメントをもらいました。フィールドレポーターの独自性とは、研究者等とは異なる視点で調査を組み立てることだと私は思っています。今後も新しい発見に期待できそうです。

さて、今後の予定ですが、掲示板の最終ページに載せております。フィールドレポーターとして積極的に活動してみたいという方は、第1・3土曜日の午後1時半から博物館交流室で定例会を行っていますので、是非お越し下さい。

フィールドレポーター担当学芸員 大槻 達郎

☒ ☒ ☞ ☞ ☞ ☞ も く じ ☞ ☞ ☞ ☞ ☒ ☒

	巻頭：好奇心をもって	大槻達郎	P 1	5	イソヒヨドリの番を見つけた	椛島昭紘	P 9
1	FR交流会の報告	井上修一	P 2	6	タケツツキで倒れ	津田國史	P10
2	橋の名前調査中間報告	松村順子	P 6	7	これってミノムシ?	ファーブルおばさん	P12
3	カンサイタンポポの花期	湖西の住人	P 8	8	茶臼山は甦るか	近江心気郎	P13
4	ツバメの子育て観察	椛島昭紘	P 9	9	お知らせ	FRスタッフ	P14

1. フィールドレポーター交流会の報告

報告文：FRS 井上修一

写真：津田國史（マーク）T

写真：中野敬二（マーク）N

今年も恒例のフィールドレポーター交流会が5月19日（土）13時30分から開催されました。フィールドレポーターが昨年度実施した「カイツブリに会いに行こう」の調査結果報告および「橋の名前を調べましょう」の調査の中間報告がフィールドレポータースタッフより行われました。加えて現在進行中の「オオキンケイギクを調べよう」の調査について、観察の要領についての説明や博物館近郊での現場観察会が行われました。



開会のご挨拶（八尋学芸員）

博物館は今年度の第2期リニューアルで交流空間の再構築を図っているところです。合わせて交流の発展という意味で地域での実践活動を担う「はしかけ」「フィールドレポーター」活動は、博物館事業の大きな柱として位置づけてられています。本日の発表を通じて活発な交流が行われることを期待します。

発表-1

「カイツブリに会いに行こう」 FRS 前田雅子

2017年12月のフィールドレポーターだより（49号）の報告をさらに発展させた内容を発表されました。スライドを使った発表では、文章説明が多いレポーターだよりに比べ、図表と写真が主体となっており、発表はとてわかりやすいものになっていました。



・カイツブリ発表と質問風景・



またゲスト参加いただいた「日本野鳥の会滋賀」の岡田さん、「野鳥生活」の田川さん、そして学芸員の亀田さんから貴重なコメントをいただきました。特に「鳥に接近するには鳥の気持ちになってやさしく」、「同じ場所を月に3回は訪れ観察することが大事」という言葉が印象に残りました。

カイツブリは静水面の鳥なんです。
草はあっても波はだめなんです。

解説。 岡田登美男さん

亀田学芸員の一言

滋賀県内の冬のカイツブリの生息数については、県のガンカモ類等生息調査で毎年調べられています。一方繁殖期については、琵琶湖についてのみ断片的に調査されていますが、琵琶湖以外の池や河川での生息状況についてはほとんど調べられていませんでした。今回の調査結果は、滋賀県のカイツブリの現状を知る上で、大変貴重なデータであると思います。

今回の調査で色々面白いことがわかってきましたが、一シーズンだけではわからなかったこと、カイツブリ自体にあまり会えなかった方も多かったかもしれません。これを機会に、今度は同じ場所で続けてカイツブリを見守っていただくことで、新たな発見を増やしていただければと思います。



発表-2

「橋の名前を調べましょう」 FRS 松村順子

今回は総件数 570 件の調査票について、一部の内容に焦点を当てた中間報告でした。今後は「調査項目間の相互関係」や「橋の名前の面白さと不思議さ」について突っ込んだ報告ができるのではと期待されます。興味を引いたのは「橋の竣工年度の推移」を表したグラフです。他の調査項目と時間軸との関係性や地域性等を分析することで興味深い結果が出てくるのではと感じました。



北井学芸員の一言

多くのデータを収集し、まとめられたことに敬意を表します。

橋の名前の有無や由来などから、橋が地域に密着した存在であることを再確認しました。

また、橋銘板から河川の名前を知ることができたという声もあり、調査を通じて地域への愛着も深まりそうだと感じました。



観察会

「オオキンケイギク観察会」 FRS 桜島昭紘

現在進行中の「オオキンケイギクを調べよう」に関連して調査内容の方法と要点の説明がありました。

その後博物館近くの「道の駅、草津」出かけて開花中のオオキンケイギクを観察し、見分け方についての説明を受けました。



・調査の趣旨説明・

現地鑑察



オオキンケイギク
(皆の感想)

- ・丈が高かった
- ・花は大きい
- ・黄色が鮮やか
- ・首が長い←(花柄が長いということだと思います。)

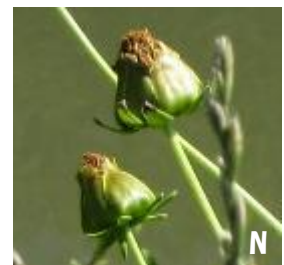


オオキンケイギク調査の要点

今年は例年に比べて気温が高く、開花時期も早いようです。

この掲示板がレポーターに届く頃には右の写真のように「総苞片」ばかりになっているかもしれません。

花が咲き残っているような場合でも下写真のようにこれがオオキンケイギクかと思えるような姿です。



探し出すのが少し厄介と思いますが、ここからがレポーターの頑張りどころです。

レポートは順調にきています。思った以上に多くの箇所ですべて咲いている内容の報告になっています。地域によってはまだ花の咲いている所があると思います。

粘り強く目をこらして、諦めずに探し出し、期限いっぱい使って報告をお願いします。



交流会を終わって一言

今年も無事に交流会が終わりました。良い天気にも恵まれ、普段聞けないような話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。その反面、コメントの声が聞こえにくかったという意見を頂きました。今後はマイクを使うなどして、参加者の皆さんと話題を共有していきけるようにしていきます。



普段はなかなか掲示板の話題には出ませんが、交流会に向けてフィールドレポータースタッフが様々な準備をしていたことをここに記しておきます。定例会では、少しでも交流会でよい報告ができるようにと、何度か発表練習を行いました、発表者の前田さん、松村さん、そして、発表に対して様々なコメントをしてくれたスタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした。また、オオキンケイギク調査のフィールドワークのために、何度も道の駅に足を運んでくれた椛島さん、本当にありがとうございました。

今年は屋外で樹冠トレイルの工事が行われており、交流会の会場への行き方が少し分かりにくかったと思います。

来年は工事も終わり、樹冠トレイルを散策しながら会場へ行くことができるようになります。調査票を返信して下さったレポーターの皆さんは是非交流会に参加してください。必ず新しい発見がありますよ！



丸子船トレイルの姿が出来上がりました

写真提供：林竜馬学芸員

フィールドレポーター担当学芸員
大槻達郎

2. 調査結果の中間報告

FRS 松村 順子

文頭ながら、まず調査員の皆様に感謝と敬意を表したいと思います。今回のテーマには、「面白くないのでは?」「なんでこんな調査をするのか?」との率直なご意見もあり、調査票の難しさから当惑された方もいらっしゃったかもしれません。特に、本調査の期間は昨年末から寒さが厳しかったので、冷たい川風の中のつらい調査でもあったかと思います。しかし、集まってきた個性あふれる調査と丁寧な報告書は、調査活動への熱意にあふれ、読めば読むほど驚きの連続。いろいろと親切なアドバイスもいただき、新参の私には、よい勉強になりました。

さて、5月19日の交流会で中間報告をした内容を、簡単にお伝えいたします。

1. 報告概要

集まった報告件数は、50件、調査者は17名、調査した橋は、570橋。所在地は、16市町で、大津市・高島市・草津市が中心でした。調査方法は、川に沿った調査が多く、道に沿った調査、地域内を中心にした調査等、ユニークな視点による調査もありました。

2. 調査結果

報告された570橋のうち、無名橋が2割弱、ほとんどの橋に名前のある結果となり、偶然にも異なる場所に同一の名前の橋が14組ありました。また、名前がわかった理由は、ほとんどが橋名板（橋の欄干のはしにある柱などにつけられている銘板）や橋歴板によるもので、他に各種の地図資料で調べたものや聞き取りによるものもありました。名前のある橋の中で、8割ほどの由来がわかり、主に橋のある地域の旧住所や現住所その一部によるものと、川の名前からという結果でした。

さらに、橋名板の情報から、昭和50年から平成7年ごろまでの間に、新しく付け替えられたことわかる橋がありました。また、その頃は他の期間と比べて新しい橋が多く竣工したこともわかりました。さらに、橋名板の縦書きも横書きへ変化していることがわかりました。

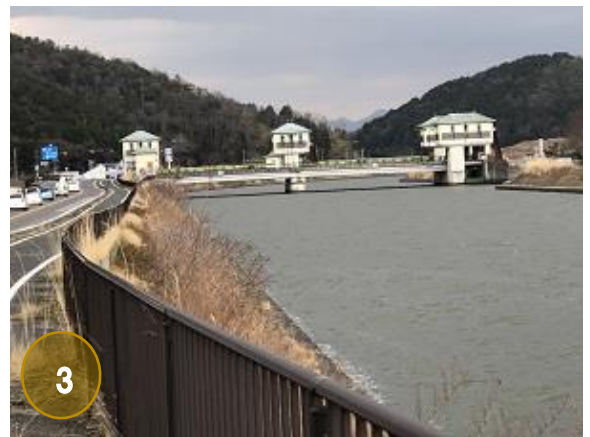
次に、橋銘板の4種類、漢字の橋名・ひらがな名、竣工年、河川名の銘板が、4つの親柱のどこにつけられているのかをまとめました。また、調査票に添付された橋の写真から、古い橋と新しい橋では、素材の違いだけでなく、親柱・欄干のデザインにも違いが見られました。新しく架けられた橋のデザインを見ておきますと、地域の新しいシンボルとしての役割を担っているのではないかと考えてきました。

さて、本調査をまとめることで、名前の付け方にいくつかの特徴を見いだすことができました。例えば、「かわ・がわ」「はし・ばし」等川や橋についてひらがなの表記が異なる橋が多く見られたこと、古い橋と新しい橋が1組になっているような場所では、新しい橋は「新～橋」という名前になっているものが見られたこと、「大橋」がつく橋とつかない橋の名前が1組となっているところが何箇所もあったこと、同一の橋なのに2つの名前を持つ橋、通常の漢字とは読み方が異なる橋、歴史や伝説のある橋などです。本調査を通じて、橋の名前についてさまざまな観点で見ることができ、橋がもつ文化的価値への興味も深まりました。

3. 「橋の名前の調査」の感想

本調査では、橋の名を丹念に調べることで、橋が川と路の要所として、地域や生活に密着したものであることを再認識しました。橋の名の由来の多くが、現在は消えて無くなった旧住所（小字名・字名）がつけられていることから、橋は地域の記録、そこに人や暮らしの記憶であると私は実感しました。これまで意識をしなかった橋に名があったこと、三面ばりの水路のような川にも名があったことに気づかされ、生活環境への無意識について意識できた面白い調査であったと考えます。

- ①常盤橋（大津市）
- ②蛭千橋（大津市）
- ③渡会橋（近江八幡市）
- ④和田一号橋（大津市）
- ⑤欲賀大橋（守山市）



3. カンサイタンポポの花期

湖西の住人

春は黄色い花が多いですが、カンサイタンポポのやさしい黄色を見ると和みます。わが家の近くの道路脇に、今年はいつ咲き始めるかな？と思って、3月に入ってから気をつけて見ていました。

花は、3月17日にはまだでしたが、1週間後の24日に行くとポツポツと咲いていました。この場所の咲き始めは2016年が3月16日、2017年が3月26日ですから、今年はずっと昨年とほぼ同時期ということになります。

遊び心で、田んぼ1枚分の区間(約25m)にいくつ咲いているかを数えてみると、39本ありました。そこから何となく、「花期のピークはいつ頃で、咲き終わりはいつだろう？」と疑問がわいて、この25m区間の花の数を数えながら確かめてみようと思いました。

観察日と花の数は次のようでした。

3月24日(土) 39本——まだポツン、ポツンの状態。

3月30日(金) 224本——いっぺんに花の数が増えた。

4月8日(日) 580本——さらに倍増。道路脇にはタンポポが一面に広がっている。

4月14日(土) 623本——増加は一段落？でも、綿毛の茎はまだ10本以下。

4月21日(土) 356本——花期のピークは過ぎたよう。綿毛と種子散布後の茎が38本。

4月30日(月) 152本——咲いている花が急に少なくなった。雑草が急に伸びてきた。

5月5日(土) 31本——雑草が20~30cm丈に伸び、花が隠れる。綿毛ばかりに。

5月11日(金) 3本——雑草が高さ20~70cmに。花は弱々しく、元気がない。



3月30日
1株に多数の花をつける



5月5日
綿毛の長い茎が、雑草と同じ高さかそれよりも低いくらい。頭花(矢印)は雑草に覆われている。

この地区の花の期間は約50日のようです。その間、咲き始めてから急激に花の数が増し、3週間ほど咲き誇った後、最後の10日間で一気に収束しました。雑草の伸長と入れ替わるように終了です。タンポポは、他の草花に先んじて花を咲かせるのですね。

一つ気がついたことがあります。この場所はカンサイタンポポばかりで、外来タンポポは25m間に1株もありません。そして、タンポポが終わっても、ブタナが出てこないのです(1株だけありましたが)。これって、凄いですよね。カンサイタンポポが残る所は、昔ながらの植物が根付いているようです。

4. ツバメの子育て観察（草津駅東口側商店街にて）

草津市 椋島昭紘

（写真撮影 椋島昭紘）

今年もツバメがやってきました。初見は3月30日。草津駅東口の上空を飛び回るのを観察しました。昨年は4月3日が初見でした。今年もツバメの巣作りから1回目の巣立ちの間を観察しました。

4月5日頃駅前の百貨店入り口の円柱上部（軒先天井近く）に巣作りが始まりました。そして、4月14日には今年初めて抱卵しているのを観察しました。昨年も同じこの時期から抱卵していました。旧東海道側の家の軒先、店の軒先で巣の受け板が準備された所、2ヶ所でも抱卵していました。



5月14日には親鳥が餌を加えて盛んに巣に入りに入りして、子育てしている巣が観察されました。百貨店入り口の円柱に5カ所、商店街の巣に5ヶ所見られました。幼鳥が5羽位見つかりました。昨年に比べると商店街の巣作り数が2ヶ所位減りました。

5月29日に今年観察している巣を見ると幼鳥の姿は無く、巣立っていました。今年の1回目の巣立ちができました。抱卵からおおよそ3週間で巣立って行きました。



例年通りですと1週間くらい経つと2回目の子育てのために、巣の修復する親ツバメが出入りするのが見られることでしょう。

観察している草津市の旧東海道の史跡草津本陣から南方向に約800mの商店街は街並み更新工事が盛んで、マンションに変わっていく所もあるので、ツバメが巣作りを敬遠するようになってきて、減っているように思われます。

5. イソヒヨドリの番（つがい）を見つけた（草津市のde愛ひろば公園付近）

草津市 椋島昭紘

（写真撮影 椋島昭紘）

公園を散歩中に鳴き声が聞こえるので探すと、公園近くの住宅の屋根にイソヒヨドリのオスとメスが居ました。（写真の左がメス、右がオス。）

イソヒヨドリはスズメ目ツグミ科、生息環境は海岸周辺や河川、ダム湖周辺ですが、最近は都市部に生息するようになっていそうです。



参考資料：「日本の野鳥」（株山と溪谷社）

6. タケツツキで倒れ

FRS 津田 國史

私の集落では、春の神事を 5月4日午後に、隣組の当番家で祝膳を囲む風習が継承されている。この席は、向こう三軒両隣の当主と久々に顔を合わせられるので、地域情報も得られる良い機会と私は捉えている。

先日その席で、集落の環濠屋敷林に現れるタケツツキ（私の仮称）の話聞いた。

彼は地域で植栽の整枝などを行っている。その彼が依頼された環濠屋敷林の樹木の整枝を始めようとして、林内から聞き慣れぬ連続音を耳にした。

小刻みに連続する音は機械的で、時折止んではまた始まる。不思議な音に慣れた頃、この屋敷の隣の奥さんが通り掛り、作業を眺めて声を掛けたので、彼があの音は？と、いま聞こえている不審な音を話題にしたら、奥さんはこともなげに“いつもですよ、あの鳥ですわ”と指さした。

彼が奥さんの指す先を見上げると、スズメ位の大きさの鳥が、竹の先端から1mくらい下に止まっている。彼は、鎮守の杜にキツツキがいて、樹木に潜む虫を探る行為は知っているが、竹をつつく鳥がいるとは知らなかったと話してくれた。

野洲川改修事業で、旧野洲川は完全に廃川処理された。それまで河川林で多くの動植物を養ってきた地帯が激変したあおりを受けて、ここを棲家としていた鳥類や動物は周辺の集落内の樹木林・竹藪などに埒（ねぐら）を移したようだ。

わが家の雑木庭とも一帯化し、集落で最大の樹林となったこの環濠屋敷林にも、キツネ・タヌキ・などをはじめ、様々な鳥類が埒をもち、いまではもう近隣の住人は、彼らを見聞きすることにも慣れてしまった。

この話を聞いて私は、ツツキ鳥が樹木より硬い竹をつついてまでして探っているのは何か？ それを知りたくなった。タケの中に樹木には存在しない美味しい食材がひそんでいるのか。これは自分の目で見て記録に撮らねばと、野次馬意識が頭をもたげ、二日後に神事の席で聞いた環濠屋敷林に出掛けたのだ。

屋敷林は、ひところより空が広くなり、竹のなかった昔に戻りつつあった。あまり人が通らない両屋敷の間の静かな小路だ。様子を窺ったが何も聞こえない。さてどうしたものかと思案の矢先に、タタタ、タタタと鈍い連続音が発生した。

電ドルの音を少し和らげたようにも聞こえる早い連続音だ。これだ！しかし音源は特定できない。間合いもぶれず、私には熟練の職人が電ドル作業をしているようにも聞こえる、リズムカルな小気味よい音だ。その元を探るが、音はすれど姿は見え、私には眼の前の藪からとしか推定できない。気が急くままに、当てずっぽうにカメラを振って音だけを録ることしばし。対象を捉えねば話にならぬので、ひとしきり鳴った音が途絶えたのを潮に、後ろの屋敷の石垣に腰を下ろして、視点を左右に振っては順に上げていった。



ちょうど正面やや左を仰いだとき、風に揺れる竹の枝先近くに枯葉ではない黒っぽい物体を発見した。

これに焦点を定めるが、いかんせん手前にある竹の枝にピントが合って、奥の黒い影はぼやけたままだ。対象は風に揺れているので懸命に追うが捉えきれず、焦点が定まらない。

ならば動画で記録と、ムーブモードにしてもピントが定まらず、ズームするが、ズームでは対象を画面内に捉えることすら困難だ。イライラが頂点に達したころあの連続音がまた発生した。

とにかく記録に止めねばと、出来るだけブレが出ない姿勢をとるべく、石垣の

背の低い植生を選んでその隙間に体を倒した。これだとカメラを構えた両肘を胸で支え、カメラを額に付けてピント調整ができるので手振れは制御できる。態勢ができたところで、息をつめて風に揺れる黒い物体に挑戦した。

鳥が啄（ついば）む位置は竹の枝が出ている節の辺りだ。後方下からの狙いなので詳細ははっきりしない。ときおり休んではつつきを繰り返し、何かを啜えて頭を横に振るが、手前の葉と枝が邪魔してはっきりしないのが悔しい。甘いピントの画像しか撮れず残念だが、この鳥が竹楽器で奏でる妙音も記録に残せた。

180506 14:55 N 35.092353 E 135.992114 環濠屋敷林のコゲラだった。

後日、学芸員の亀田さんに話したところ、今は彼らの繁殖期で、仲間に自分の存在を知らせているのかもとのこと。彼は採餌でなく、音を発して雌にアピールのドラミングをしていたのかな。樹木より響きの良い音が出せることを知りドラミングを楽しむ楽器鳥なのか。後日聞いたら、いつも同じところに止まって、この音を発しているとのこと、これは縄張り宣言なのかな。

ドラミングで己の存在をアピールしているコゲラを撮ろうとして、じつは私も期せずして無様に自分をアピールしていたのだ。

こちら側の屋敷の庭を掃除されていた女性二人が、倒れ込んでいる私を見つけ“大丈夫ですか？”と声を掛けて下さったのには、すっかり恐縮してしまった。人が道端で仰向けに倒れているのを見ては、誰しも不審に思うのは当然だろう。“こいつを撮っているのですわ”と、私を倒したタケツツキ＝コゲラを指してお詫びした連休最終日の午後であった。

7. これってミノムシ？

ファーブルおばさん

4月、ようやく暖かくなって庭の掃除をしていたら、家の外壁のアルミサッシ窓の下に、ミノムシがついているのを見つけました。フィールドレポーター調査に登場するミノムシは、葉っぱをつけていたり細い枝をつけていたりしますが、これは雑草の枯れ茎を蓑にしている（左の写真）、本当にミノムシなのかな？と自信がありません。

蓑は幅 12 mm×長さ 50 mm、庭に生えている芝生やスギナや雑草の茎・葉などをつけています。全体がストロー（ワラ）でできているので、フワフワ・ボサボサです。また、上部は蓑を厚めにつけていますが、下部はシースルー状態で申し訳程度にしかついていません。地面から1mくらい上のサッシに、綿毛のような糸で接着してぶら下がっていましたが、見つけた時には中身が空で、下に穴が開いていたので、無事に抜け出て羽化したようです。

実は、2年前の冬にも、同じ場所で同じようなミノムシを見ました（右の写真）。そちらも、壁の上面からぶら下がっていて、ストローの蓑をつけていました。同じ種類のミノムシだと思います。

オオミノガは枝に糸を巻き付けてぶら下がりますし、チャミノガやクロツヤミノガは面に直接着くので、我が家のミノムシはそれらの種ではないと思います。そして、庭には木もあるのにその木や葉を利用せず、わざわざ草を選択して人工物についたとしか思えません。サイズが5cmというのは、なかなかの大型です。これは一体、何者なのでしょう？ ミノガではないのでしょうか。

昆虫に詳しい方がいらっしゃいましたら、種名を教えてくださいませんか。



写真

左：今年4月に見つけた個体

右：2015年12月に見つけた個体

8. 茶臼山は ^{よみがえ}甦るか

近江心気郎

皆さんの中には「ああそんな事もあった」と記憶に残っている方もいらっしゃるかもしれませんが。2年前です。

私のタンポポとの出会いとなった茶臼山が無残な姿で報道されたのです。地元の皆さんの切実な要求がどの程度反映されているのか詳細は解りませんが、近隣に住まいする者として復旧工事には注目してきました。



タンポポ調査でカンサイタンポポ探しを始めた頃、山の東側に当たるこの部分の上部にはで、こんなにたくさん花をつけるのだと感動した 正（まさ）にその場所です。

報道される直前は、雨が降ると滝のようになり山が崩れて茶臼山自体が無くなるかと思える惨状でしたが、徐々に復元工事が始まり放水、崩落は食い止められたようです。それでも今年に入ってもビニールシートに覆われた斜面は見ていて心痛む姿でした。



昨年は気象条件も悪く、ここに限らずタンポポ観察に力の入らない年でしたが茶臼山は健闘していました。

そして今年です。

見てください。工事中の場所以外茶臼山全体タンポポでいっぱいになりました。もちろん全部カンサイタンポポ。西洋タンポポも結構見られますが何だか肩身の狭い咲き方で、「がんばりヤー」と声をかけたくなります。

工事現場の近くでも早速花が顔を出しました。なんと健気なと思います。数少ないその頭（花）をナデてあげたい風情でした。

自然の力はすごいと思います。多分ここ数年間はこの斜面付近の土は乾燥しきっていたでしょう。茶臼山全体も何かの影響はあったとおもいます。この南斜面だけでなく広い東と北の斜面もあります。

今まで東斜面の専売だったのが今年は北斜面に広がり、こちらも咲き方が壮観でした。

茶臼山は、ほとんどがカンサイタンポポでその数も多いから、大津市の観光名所にしたらどうかなんて言ってきましたが、今年は100万本のカンサイタンポポが見られるスポット（すこし盛りすぎ）と銘打って絶対やるべしと言いたい気持ちです。



4月～6月の活動報告

月	日	内 容	参加者	主な議題・活動
4月	7日(土)	定例会	10名	①橋の調査レポート進捗状況 ②オオキンケイギク調査票内容の検討
	21日(土)	定例会	10名	①橋の調査中間報告まとめ方・作業分担について ②オオキンケイギク調査資料発送
5月	5日(土)	定例会	12名	①交流会準備、役割分担の確認 ②発表内容の確認(学芸員参加)
	12日(土)	臨時会	8名	FR交流会開催の最終調整
	19日(土)	FR交流会	22名	①2018フィールドレポーター交流会 ②反省会 ③91号掲示板の原稿分担
6月	2日(土)	定例会	10名	①掲示板91号発行の最終調整 ②交流会の反省 ③アキアカネ調査起案 ④次回調査テーマ探し
	16日(土)	定例会	10名	①FR掲示板91号発送

H30年 7月～9月の活動予定

日	時	内 容	場 所
7月	7日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
	21日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
8月	4日(土) 10:00～17:00	アキアカネ調査	びわこバレイ
	18日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
9月	1日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室
	15日(土) 13:30～17:00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13:30～17:00に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

春の調査の「オオキンケイギクを調べよう」が始まったばかりなのに、活動予定に「アキアカネ調査」が入っています。時間の進みが早いですね。私たちの活動も地味ながら確実に進んでいます。

報告内容に対しその都度各界から注目の声が届くようになってきました。フィールドレポーターの活動が具体的に評価され期待されている結果だと思います。がんばりましょう。(中野)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物 1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
Email: freporter@biwahaku.jp